

演奏したくなる打感と 際立つドラムサウンド

2025年5月23日、ヤマハの電子ドラム「DTX6」シリーズに新たなラインアップが加わった。新開発のメッシュヘッドを搭載した12インチのスネアパッドが採用された「DTX6K5-MUPS」である。「ミドルクラス向けの電子ドラムにメッシュパッドを」という構想は、2020年に発売されたDTX6シリーズの企画時からなされていたもので、ヤマハの電子ドラム愛好者からも定番のメッシュパッドに対する要望が数多く寄せられていたという。そんな市場のニーズに応え、まさに満を持しての登場となった。

「MUPSとは“メッシュパッドを採用したアップグレードセット”という意味です。国内での販売時にはドラムスツールとフットペダルがセットに含まれるので、スティックさえあればすぐに演奏を楽しんでいただけます。中・上級者はもちろん、これからドラムを始めたいという方にもおすすめできるモデルになりました」(マーケティング担当の楠講平さん)

さらに念頭に置かれていたのは「演奏者のライフサイクルに合わせて変化、成長する電子ドラムである」ということ。

「演奏レベルやスタイルに合わせて最大14までパッドが追加できますし、アコースティックドラムに比べてセッティングが簡単でお子さんなどとも共用しやすい楽器です。例えば初心者としてご購入いただいてから、練習に打ち込む時期があったり、少

し離れる時期があったりしながらも、人生を振り返るようになる頃まで長く使い続けてもらえたならうれしいですね。ゲーム的な要素を持たせた練習機能も搭載されていますし、どんな時も楽しみながら演奏していただけたと思います。ある意味、非常にコストパフォーマンスに優れた一台です」(企画担当の竹久英昭さん)

機能性、デザイン性、耐久性が 支えるDTX6K5-MUPS

こうした長期間にわたって愛用される楽器としての「DTX6K5-MUPS」を支えているのが、機能性、デザイン性、耐久性という三本柱である。

「電子ドラムではありますが、アコースティックドラムと同じような感覚で思い切り演奏や練習をしてもらえることが理想です。そのためにも、演奏者のタッチを3つのセンサーで正

確に感知するセンシング機能の精度を磨きつつ、打撃耐久試験を重ねて、安心して演奏していただける耐久性を確保しました」(開発担当の原田敬三さん)

加えて、ビジュアル面でも「ドラムらしさ」にこだわったデザインに仕上げた。

「新採用のメッシュパッドの口径を大きくしたり、スネアパッドのフープはアコースティックドラムと同じものを採用していたり、またシェル部分にはチューニング用のテンションボルトが付いていたりと、細かい部分のデザインを洗練させて、アコースティックドラムの演奏感覚により近づいたと思います」(原田さん)

ヤマハドラムの代名詞 Recording Customを新搭載

音源モジュール「DTX-PRO」に關しても、今回の「DTX6K5-MUPS」



DTX6K5-MUPSのこだわり



●メッシュパッドを採用

スネアドラム、タムタム、フロアタムのヘッドにREMO社製の2plyメッシュを採用。これにより好みに合わせたチューニングや、高い反発性による爽快な打感を生み出した。



●パッドの口径を変更

●アコースティックドラムと同じフープを使用
スネアドラム用の「XP120L-M」は12インチ、タムタム・フロアタム用の「XP100L-M」は10インチ、ライドシンバルも15インチと、従来のDTX6シリーズよりも大きい口径に変更。また、アコースティックドラムに使われるものと同じフープを使用することで、より自然な叩き心地を実現している。



●DTX-PRO V2.0

直感的な操作でサウンドメイキングができる「DTX-PRO」。バージョン2にアップデートされ、従来の40のキットに加えヤマハの「Recording Custom」を含む30キットが追加されている。その一部ではシェルの共振音やスネアワイヤーの音など、リアルな響きやノイズまで調整可能になった(ブリード機能)。